

第 22 回廿日市市産業振興審議会 議事録

日 時：令和 8 年 7 月 23 日（木）15：00～16：40

場 所：廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者（委員）

- ・ 県立広島大学 副学長 上水流委員（会長）
- ・ 広島工業大学 副学長 林委員
- ・ 広島修道大学 教授 富川委員（副会長）
- ・ 佐伯商工会 会長 夏原委員
- ・ 大野町商工会 会長 田畠委員
- ・ 宮島町商工会 会長 松本委員
- ・ 一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 上野委員
- ・ 一般社団法人宮島観光協会 会長 中村委員
- ・ 廿日市市金融懇談会 幹事支店長 末次委員
- ・ 中国経済産業局 総務企画部 企画担当課長 中野委員
- ・ 廿日市公共職業安定所 所長 寺本委員
- ・ 廿日市市 副市長 村上委員

※廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員、ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員、広島県商工労働局 地域経済支援担当部長 山崎委員は欠席

事務局

- ・ 産業部長
- ・ 産業部 産業振興課長
- ・ 産業部 農林水産課長
- ・ 産業部 観光課長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 係長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任主事
- ・ 一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム 事務局長

1. 開会

開会あいさつ、委員紹介（事務局）、会長挨拶（上水流会長）（記録省略）

2. 議題

議題(1) 第2次廿日市市産業振興ビジョンの指標について（資料1・参考資料）

■ 事務局説明

事務局より資料に基づき説明。（説明内容の記録省略）

- ・施策4「ネットワーク」については施策1～3を支える支援体制の構築を掲げており、目標指標は定めない。

■ 審議内容

【施策1】

▶ 上水流委員

- ・一部すでに数値が入っている指標について、意見を出してよいか確認。

→ 事務局：別計画で設定済みの数値のため、そのまま据え置きとする。

▶ 上水流委員（施策1-1 ①地元事業者の魅力発信支援）

- ・「施策への参加者数」は事業者数ではなく、イベント来場・参加者数という認識でよいか。

→ 事務局：その通り。

▶ 上水流委員（施策1-1 ③人材の育成支援）

- ・デジタル人材の重要性が高まっている中、デジタルに関する指標を何らかの形で追加すべきではないか。

→ 事務局：生成AIの活用など、デジタル人材の必要性は認識している。指標に盛り込む箇所がないか検討する。

▶ 上水流委員（施策1-2 目標指標）

- ・「採用から3年経過した正規社員の数／過去3年間に採用した数」で割合を算出する指標について、事業者にとって負担が大きくないか懸念。各委員に意見を求めた。

▶ 夏原委員

- ・佐伯商工会会員は個人事業者が多く人の出入りが少ない。建設・電気・設備業は離職率が低い傾向。

▶田畠委員

- ・建設業は経営審査があり従業員管理は整理されている。従業員名簿があれば対応可能。

▶松本委員

- ・宮島は個人企業が多く定着率は割とある方。入社記録があれば算出できる。

▶上野委員

- ・飲食・旅館業ともに、3年の区切りで算出することは問題ない。

▶中村委員

- ・対応可能。

→ 結論：各委員より「対応可能」との回答。指標はこのまま維持する。

▶ 富川委員（施策1－2 ②働きやすい職場環境整備支援）

- ・男性育児休暇取得率48.6%について、1日以上取得も対象に含まれるか。

→ 事務局：現行数値は日数の下限なし。男性育児休業奨励金は14日以上が条件。指標としては14以上の取得率で設定するか検討したい。

▶ 上水流委員（情報提供）

- ・広島県の男女共同参画の場では「単独取得」を指標とする動きもある。廿日市市でも参考にしてほしい。

▶ 末次委員（施策1－2 ①多様な人材の活用等促進）

- ・外国人の生活・雇用支援について、全国的に問題が生じている中、何らかのKPIを設けるべきではないか。

▶ 上水流委員

- ・廿日市市は多文化共生プランを持っているか。

→ 事務局：あり。多文化共生プランの指標も参照しながら、本ビジョンへの指標追加を検討する。

【施策2】

▶ 富川委員（施策2－3 目標指標）

- ・「環境に配慮した経営に取り組むよう努めている割合」の算出方法について、①②③のいずれか1つでも取り組んでいれば該当するとのことだが、それでは目標指標と個別施策の数値が同一になり、他指標との整合性が取れなくなるのではないか。

→ 事務局：目標指標または事業内容の再設定を検討する。

▶ 上水流委員

- ・個別施策指標の「努めている」を「取り組んでいる」に統一してもよいのではないか。

▶ 中野委員（施策 2-2 ②異業種交流会の参加事業者数）

・参加事業者数だけでは販路開拓や生産性向上の成果が測りにくい。①に指標が 2 つあるように、②にも商談会・テストマーケット件数など販路開拓に直結する指標を追加してはどうか。

→ 事務局：同様の課題意識を持ちながら設定した指標。毎年継続できる指標として現行のものを選んだ経緯がある。引き続き検討する。

→ 結論：検討課題として事務局に預ける。難しい場合は現行指標を維持する可能性あり。

【施策 3】

▶ 林委員（施策 3-2 目標指標）

・「木のまちはつかいちの認知度」は中間指標的な印象がある。認知度向上の先にある目標を指標とする方が望ましいのではないか。また、個別施策の中で代表的な②を中心に目標指標を掲げる考え方でよいか。

▶ 上水流委員

・「木のまちはつかいち」の認知は市外の人に広がるのが本来の目的ではないか。市民アンケートのみでよいか。

→ 事務局：まず市民への認知を広げる段階であるため、市民アンケートを指標とした。木のまちはつかいちは、木工製品・伝統産業・宮島細工など幅広い要素を含む概念であり、代表的な指標として設定した。

→ 林委員：了解。

【施策 4】

・目標指標なしとすることを確認。委員より了承を得た。

議題(2) 令和 8 年度第 2 次廿日市市産業振興ビジョン関連事業の実施状況について(資料 2)

■ 事務局説明

事務局より資料 2 に基づき説明。(説明内容の記載省略)

■ 審議内容

【方向性 1】

▶ 上水流委員（1-1 ②困りごと支援）

・宮島町商工会から「周知の仕方が難しい」とあるが、具体的にはどういうことか。

→ 松本委員：小規模事業者には敷居が高いイメージがあり、利用につながりにくい。大・中規模事業者やホテル・旅館からは好評。メール便での案内やマイナビバイト（宮島版）の活用なども試みているが、小規模事業者への周知は依然難しい状況。

▶ 上水流委員（1-1 ③人材育成支援）

・オンライン日本語教室について、レベル設定はどうなっているか。

→ 事務局：廿日市商工会議所委員が本日欠席のため、ヒアリング内容に基づき回答。今年度から新規実施予定で実績はこれから。N3 レベルを目指して実施する予定。

【方向性2】

▶ 上水流委員（2-2 ③中東情勢・ナフサ需給逼迫）

・市として対応できることはあるか。佐伯商工会から「市独自の支援が乏しい」との記載もある。

→ 事務局：R8 年度6月補正でビニールハウスのリノベーション・張替・購入に係る補助金を計上。融資の無利子化にも対応。今後も情勢に合わせた支援を検討する。

▶ 夏原委員

・ビニールハウスの件で、仕入れ状況により申込期限に間に合わないとの問い合わせが入っている。石油関係でも困っている業者の声が上がってくる可能性がある。支援・補助が可能であれば照会をお願いしたい。

→ 事務局：ビニールハウスの納期遅延は把握している。状況に合わせて対応する。

→ 事務局：石油関係は影響を受ける業種が多岐にわたるため、幅広く支援できる対策を検討する。

▶ 上水流委員（2-3 ①ネイチャーポジティブ経営）

・認知・取組が進んでいないとのことだが、理解促進のためのセミナー等はあるか。

→ 事務局：担当部署が本日不在のため、今年度の事業を確認の上、次回報告する。

▶ 上水流委員（情報提供）

・県立広島大学では包括連携自治体と連携し、大学教員が課題研究に参加できる仕組みがある。商工会・商工会議所等も負担金を拠出することで調査研究が可能。現在各市町への案内を送付中と思われるため、確認・活用を検討してもらいたい。

▶ 寺本委員（2-2 ②牡蠣大量へい死）

・雇用調整助成金は該当しないが、融資を希望するニーズは現在もあるか。ハローワーク現場では事業者からの相談は現時点では入っていない。

→ 事務局：各漁協・組合へのヒアリングを経て希望を集約し対応している。シーズンに向けて昨年との比較が明確になるため、状況に応じた施策を講じる。原因究明にも注力する。

【方向性 3】

▶ 富川委員（3-1 ①②の整理）

・実施内容と目的のすみ分けが不明確な事業が見受けられる。例えば「3-1-① 2」は回遊性に該当するため②が適切、「②の 3・6」は①に該当すると考えられる。

→ 事務局：ご指摘の通り。適切に修正する。

▶ 富川委員（3-1 ①エコツーリズム）

・宮島のエコツーリズムは自然活用型ではなく伝統文化活用型であり、一般的な定義と異なる。課題にある「ランドオペレーター」の意味合いや「温度差」の内容をより具体的に記載すべきではないか。

→ 事務局：宮島の紅葉・桜の再生活動をエコツーリズム協議会が引き継ぎ、植樹・ツアー造成を試行中。ランドオペレーターはツアーの認知・集客のために活用を検討しているが、用語の意味に相違が生じた可能性がある。

【方向性 4】

▶ 上水流委員

・様々な大学と連携し活用が進んでいると感じた。

3. 説明事項 地場産業成長プラン素案について（資料 3、参考資料）

■ 事務局説明

事務局より資料に基づき説明。（説明内容の記載省略）

■ 審議内容

▶ 富川委員

・非常に読みやすくまとめられている。「世界遺産「宮島」の歴史・文化と深く結びついた伝統工芸品がある」という文章のストーリー性から「日本遺産」登録の検討を提案したい。「はつかいちクラフト職人」冊子を見て埋もれた資産が多くあることを知った。宮島以外の回遊性の可能性を感じる。

→ 事務局：これまで検討した経緯はない。

▶ 上水流委員

・素案(3)の「島内（宮島）と本土側（平良丘陵）の双方が持つ異なる強みを連動・補完させる」との記述について、「連動」の具体的なイメージが読み取りにくい。意見として提示するにとどめる。

→ 事務局：具体案はまだないが、観光客の回遊やモノの移動など、一体的な連動をイメー

ジしている。

▶ 中野委員

・核となる事業者 5 者が高付加価値化の取組の中心となると思われるが、取組の具体像においてその関わり方がより見えると、プランの内容がわかりやすくなると感じた。(感想として)

▶ 富川委員 (情報提供)

・宮島口へのホテル進出について、外資系・大型ホテルは囲い込み型となりやすく、景観への影響・地域経済への波及効果の限定・低賃金の季節労働増加などの問題が指摘されている。今後の動向を注視していただきたい。

4. 閉会

・(村上委員挨拶 省略)

・事務局より以下の通り連絡。

本日の審議内容は事務局にて取りまとめ、後日、会議録を配布・共有する。

次回審議会は 2 月または 3 月頃の開催を予定。日程は改めて連絡する。

以上